

指定管理者制度導入施設 モニタリングチェックシート

(令和5年度 上半期(4月～9月) 年間(4月～3月) の管理運営状況)

施設名	秋川溪谷 戸倉体験研修センター	指定管理者	新四季創造株式会社
指定期間	令和5年4月1日から 令和10年3月31日まで	担当課	観光まちづくり推進課

1 業務の遂行状況及び収支の状況

項目	分類		年間計画（A）	実績（B） （モニタリング時）	対計画比率 （B/A×100）
業務の 遂行状況	開館日数（日）		314	311	99.0%
	延べ利用者数（人）		24,524	25,462	103.8%
	事業開 催回数	必須事業：宿泊（回）	60	77	128.3%
		自主事業：体験（回）	55	72	130.9%
収支状況	収入	指定管理料（円）	26,500,000	26,500,000	100.0%
		利用料金収入(売上)（円）	9,453,000	10,042,200	106.2%
		自主事業(体験飲食等)収入（円）	11,595,000	15,055,373	129.8%
		その他の収入（円）	0	76,434	-%
	収入計（円）…①		47,548,000	51,674,007	108.7%
	支出	人件費（円）	28,500,198	29,569,433	103.8%
		維持管理経費（円）	12,413,871	12,205,323	98.3%
		自主事業関係経費（円）	人件費に含む		-%
		その他の支出（円）	3,873,021	5,667,231	146.3%
	支出計（円）…②		44,787,090	47,441,987	105.9%
	収支（①－②）（円）…③		2,760,910	4,232,020	153.3%
	諸経費（本社運営費など）…④		－		-%
	総収支（③－④）（円）		2,760,910	4,232,020	153.3%

指定管理者の自己評価 (改善点、その他特記事項)

【開館日数・利用者数について】 開館日数：311日 利用者数：20,307人 (見学等利用者数：5,155人) 延べ利用者数：25,462人 ※令和5年度は新型コロナの感染 拡大防止による休館なし ※屋上防水工事及び受水槽ポンプ 交換により2日間の臨時休館	【事業の実施状況について】 新型コロナの影響による行動制 限が大幅に解除され、全体的に6 月中旬以降に利用者が回復傾向に なった。利用者数は見込に対し938 人、前期実績に対し611人の増加 となった。 宿泊事業については、近年発生 していたキャンセルが減少し、団 体活動による研修、合宿などによ り利用者が回復した。	【収支状況について】 (収入) 利用料収入は年間計画に対し 106.2%、自主事業収入は飲食部門 の価格変更等により129.8%とな った。 (支出) 人件費及び物価の高騰による仕 入額が見込以上に増加したが、宿 直業務などを自社で対応し経費の 抑制につなげた。
---	--	--

所管課の評価 (指摘事項)

【開館日数・利用者数について】 開館日数は、臨時休館を除けば、 年間計画どおりである。 延べ利用者数は、新型コロナに よる制限が解除され、過去最高だ った昨年をさらに上回っている。	【事業の実施状況について】 新型コロナによる行動制限がな くなったことで、地元農家や神社、 自然体験などと連携した事業実施 ができている。	【収支状況について】 収入は、年間計画を上回る成果 を挙げている。 支出は、人件費が年間計画を若 干上回っているが、業務見直しに よる経費縮減に取り組んでいる。
--	--	--

2 チェック項目

評価項目・評価事項（数値目標）		確認資料等	指定管理者の 自己評価	所管課の評価
受付等の業務	施設の利用許可等を条例に従い適切に行っている	日報、月報、申請書	適正・要改善	適正・要改善
	使用料、利用料金の徴収、減免を適切に行っている	日報、月報、申請書	適正・要改善	適正・要改善
施設・設備の 維持管理	消防設備、機械設備の保守点検や施設の修繕等を適切に行っている	各種点検結果報告書、実地	適正・要改善	適正・要改善
	衛生環境を維持するため清掃業務等を適切に行っている	日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善
	備品等を適切に保管・管理している	備品台帳、実地	適正・要改善	適正・要改善
	業務の全部又は主たる業務を第三者に請け負わせていない	実地	適正・要改善	適正・要改善
安全性への配慮	安全管理、衛生管理、危機管理に関するマニュアルが整備され、また、職員等に対する指導訓練が適切であり、市への通報体制が整っている	危機管理マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	避難経路の確保、事故防止策や防犯等の警備業務など利用者への安全対策が講じられている	実地	適正・要改善	適正・要改善
	損害保険等の必要な保険に加入している	保険証書	適正・要改善	適正・要改善
透明性・公平性	ホームページ等により施設の情報の公開に努めている	ホームページ	適正・要改善	適正・要改善
	情報公開に対する体制を整備している	情報公開マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	利用者の平等な利用が確保されている	日報、月報、利用者アンケート、申請書	適正・要改善	適正・要改善
効果的・効率的な運営	苦情や利用者アンケートによる意見、要望等を管理運営に反映している	直接の振り返り等	適正・要改善	適正・要改善
	施設の利用者拡大の取組を行っている	日報、月報、事業報告書	適正・要改善	適正・要改善
	経費削減のための取組を行っている	日報、月報、事業報告書	適正・要改善	適正・要改善
	広報紙、チラシ、ホームページなどにより積極的に事業等を周知している	広報紙、チラシ、ホームページ	適正・要改善	適正・要改善
人員配置・ 人材育成等	事業計画書どおりの人員を配置している	13-15人 人員配置計画、実地、出勤簿	13人 適正・要改善	適正・要改善
	事業計画書どおりの職員の指導育成や研修を行っている	2回/年 研修マニュアル	実施回数2回 適正・要改善	適正・要改善
	障がい者や高齢者の雇用促進に努めている	92% 人員配置計画	92% 適正・要改善	適正・要改善
	労働法令の遵守や労働条件への適切な配慮がなされている	実地、出勤簿	適正・要改善	適正・要改善
個人情報の保護	個人情報を保護するための取組を行っている	個人情報保護マニュアル	適正・要改善	適正・要改善
	文書管理を適切に行っている	保存文書	適正・要改善	適正・要改善
自主事業の取組	自主事業の実施により、市民サービスの向上に努めている	事業報告書、日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善
環境への配慮	省エネルギーの取組、環境負荷低減、ゴミの減量など、環境への配慮に取り組んでいる	日報、月報、実地	適正・要改善	適正・要改善

※評価基準

「適正」：その項目について、協定書、事業計画書等に沿った適正な指定管理業務を行っている。

「要改善」：その項目について、協定書、事業計画書等に照らし合わせて、目標達成されておらず、改善の余地がある。

3 上記 1、2 の評価に関する所見

指定管理者による所見（改善点、その他特記事項）

令和 5 年度は、近年の運営に多大な影響を及ぼした新型コロナが 5 月に「5 類感染症」になったが、引き続き日々の衛生作業の徹底、体調管理に十分に注意しながらの営業だった。部門別年間利用者は、以下のとおりとなった。

体験及び研修利用者は見込 6,430 人に対し、実績 5,903 人で 527 人減少した。飲食利用者は見込 12,035 人に対し、実績 12,564 人で 529 人の増加した。宿泊利用者は見込 1,559 人に対し実績 1,840 人で 281 人増加した。

この部門別利用者数と展示などのジオ室見学を合わせた結果、延べ 25,462 人となり、新たな指定管理期間として良い結果となった。

宿泊の売上高は見込 7,066 千円に対し、実績 8,481 千円で 1,415 千円の増収となり、宿泊利用者の回復の兆しが徐々に現れた。さらに、宿泊者が増加したことで滞在中の飲食売上も増加し、飲食収入は見込 10,579 千円に対し、実績 13,683 千円で 3,104 千円の増収となった。

貸出については、減免利用対象の一般利用の団体が多くあり、また、ドローン研修利用の関係やロケ撮影団体が減少したが、地域コミュニティ利用の観点から福祉団体に喜ばれたものと考えている。地域の有志により展示室を活用して芸術性や豊かさを感じられる展示イベントを季節ごとに開催することで利用者を魅了した。

また、施設を管理運営する上でリスクマネジメントの講習に参加し、スタッフの意識の向上に努めた。

今後も安全・安心・柔軟さを大切にし、行政との連携、地域と協力することで、顧客満足度の向上に努めるよう企業努力していく。

所管課による所見（指摘事項など）

依然として続いている光熱水費、原材料の高騰の影響があるものの、ランチ営業の価格を季節ごとに変更したり、利用者が減少する曜日などを試算し、シフト調整を行うことで、飲食に係る人件費の抑制の取組が図られている。また、宿泊についても、オフシーズン期間は、スタッフ自らが宿直対応を行い、経費削減が図られている。支出に関する企業努力が行われており、評価できる。

利用者数については、新型コロナによる行動制限がなくなったことで、回復傾向になっている。リピート利用が多い、宿泊者については、感想等を直接聞き取り、実現可能な内容は対応しており、サービス向上の取組が積極的に図られている。

今後も利用者の目線に立ち、施設の魅力を高め、継続的に施設を利用したいと思われる施設運営を目指すとともに、健全な事業運営に努めてもらいたい。